ふりがな 学校名	ほつかいどうえべつこうとうがっこう 北 海 道 江 別 高 等 学 校

校 長 名：熊谷　　勉

所 在 地：北海道江別市上江別444番地の1

電話番号：011-382-2173

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	家庭

≪研究主題≫

生徒の学習意欲を高め，専門的な知識や技術の定着を図る指導の工夫・改善

【研究の要点】

①「リビングデザイン」では，目標を焦点化することで，「住まう」ことや「暮らし方」について「家庭総合」「家庭情報処理」と関連付け，生活者としての視点からライフステージを意識させて指導することができた。また，年間指導計画に基づいた大学等専門機関による出張講座の実施は，生徒の学習意欲の向上につながった。

②「課題研究」では，ポートフォリオによる学習過程や成果の積み重ねにより，課題について構想を立てて実践し，評価・改善を繰り返して思考を深め，次のステップに向かう学習意欲を高めることができた。

③「IGRすてきプロデュース」と名付けた，生徒自らが企画・運営に取り組む活動により，学年の壁を越えた協力体制を築くとともに，地域に根ざした活動等の取組により，生徒の企画力やコミュニケーション能力の育成，学習意欲の向上を図ることができた。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

本校は，84年の歴史と伝統のある，市内で唯一の全定併置校及び専門学科併置の公立高校である。家庭に関する学科は，平成８年度に学科改編し，家政科から生活デザイン科となった。現在は，２つのコースを設置し，染織・インテリアデザインと服飾デザインに関する専門的知識と技術を習得させるなど，様々な教育活動を展開している。

しかし、本校生活デザイン科においては，専門的知識・技術の定着を図る指導の充実と課題解決能力やコミュニケーション能力の育成の２点が課題となっている。

２　学校の概要（平成22年4月5日現在）

課程	学科	１年 学級数	１年 生徒数	２年 学級数	２年 生徒数	３年 学級数	３年 生徒数	４年 学級数	４年 生徒数	計 学級数	計 生徒数
全日制	普通科	6	240	6	235	6	237			18	712
	家政科	2	80	2	72	2	78			6	230
	生活デザイン科	1	40	1	32	1	36			3	108
	計	9	360	9	339	9	351			27	1050
定時制：普通科		1	22	1	16	1	12	1	14	4	64
計		10	382	10	355	10	363	1	14	31	1114

教員数 72 名（７名）

※本研究に関する科目の開設状況

「リビングデザイン」２年次２単位，３年次４単位

「課題研究」３年次４単位

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

(1) 研究主題

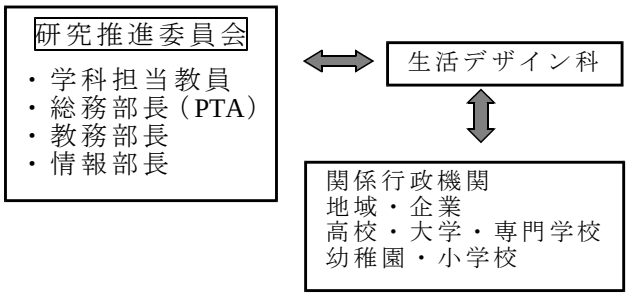
生徒の学習意欲を高め，専門的な知識や技術の定着を図る指導の工夫・改善

(2) 研究主題設定の理由

専門科目において，言語活動の充実に視点を据えた指導の工夫・改善により，生徒の学習意欲を高め，コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。

思考力・判断力・表現力等の向上を目指す指導の充実により，専門的知識や技術の定着を図り，課題解決能力や活用能力等の真の学力を身に付けさせ，社会に貢献できる人材を育成する。

(3) 取組体制



(4) ２年間の主な取組

平成21年度	○これまでの取組の成果と課題の明確化 ○指導方法の研究・実践 ○学習内容・学習教材の研究 ○授業公開，研究協議会の実施 ○１年次まとめ(成果発表会,作品公開,生徒意識調査)
平成22年度	○１年次の成果を踏まえた授業の構築 ○関連機関・地域との連携を図った実践及び情報発信 ○学習内容・学習教材の研究 ○実践発表・研究協議会の実施 ○２年間のまとめ・評価（成果発表会，アンケート調査の実施） ○成果の公開・普及（Ｗｅｂページ等）

２　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究の重点

①　学習内容・学習教材の工夫・改善

専門科目「リビングデザイン」の目標を焦点化し授業改善を一層進めるとともに，「家庭総合」及び「家庭情報処理」との関連性を踏まえた指導計画の作成及び学習内容や教材の工夫・改善を行う。

②　指導方法の工夫・改善について

ア　専門科目「課題研究」について，専門的な知識と技術の深化を図り，生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する指導過程の分析と生徒の変容の検証を行う。

イ　生徒が身に付けた知識や技術等を総合的に活用する力の育成を図るとともに地域・産業との連携をさらに進め，専門科目の指導方法の改善・充実を目指す。

(2) 具体的な取組

①　専門科目「リビングデザイン」における学習内容・学習教材の工夫・改善

目標を焦点化し授業改善を一層進めるとともに,「家庭総合」及び「家庭情報処理」との関連性を踏まえた指導計画の作成及び学習内容や教材の工夫・改善を行う。

以上を研究の重点とし,【住生活と文化】【住空間の構成と計画】【文化・構成・計画・デザイン】というキーワードを設定し「住まう」ことや「暮らし方」について家庭科の特徴である生活者の視点をもって授業実践に取り組んだ。ライフステージを意識した住分野学習の流れは次のとおりである。

１年　「家庭総合」（導入）
２年　家族の中の私（一人暮らし等）
３年　ライフスタイルによる暮らし方

授業実践へ向けての具体例は，３本の柱を立てて構築を目指した。

柱１　大学等専門機関との共同授業
柱２　情報機器を積極的に活用した実習
柱３　キーワードに焦点化した課題の設定

○柱１についての取組

本校の年間指導計画に基づいた大学等専門機関による出張講座を実施した（平成21年度11回，平成22年度12回)。

担当者(大学等)との打合せ→授業(本校教諭)→出張講座→担当者との次時の確認→授業，といった流れで繰り返し実施した。

また，先方に内容を一任するだけの授業では,本校の実態に合った教育実践には発展しにくいとの助言を受けて，単なるガイダンス的な学習ではなく，年間指導計画に基づく授業実践を行った。

３月　年間指導計画に基づく１年間の出張講座計画と相談・助言

４月～授業内容確認，進度の調整，共通プリントの使用方法の確認等，メールを活用した綿密な打合せの実施

８月　７月までの授業の振り返り，修正，
　　８月以降の授業の打合せ
～１月　まとめ『卒業設計プレゼンテーション発表会』の実施

＜平成22年度　「リビングデザイン」年間学習指導計画＞

１．科目の概要

教　科　名	家庭	科目名	リビングデザイン	単位数	４単位
学科学年組	生活デザイン科　３年　Ｉ組（リビングデザインコース：18名）			指導教諭	有永和織
使用教科書	なし				
使用教材等	リビングデザインに関する資料や模型等を使用する。				
指　導　目　標	○生活と住居，住居の設計，インテリアなどに関する知識と技術を習得させ快適な住空間をデザインする能力と態度を育てる。 ○社会の変化やライフスタイル，社会施設の整備などにより変化していくことを理解させ，今後の住生活と住居に関心をもたせる。				

２．学習指導計画

区分	月	予定時数	実施時数	単　元	主な学習活動（指導内容）	考査・課題
前期	4	16	14	オリエンテーション 第５章 インテリアカラーコーディネーション	【課題１】カラーについて（まとめ） ■第１回　道都大学からの出張講座 実施日　４月28日２・３校時 「住まいとインテリアデザイン」倉本龍彦教授 【課題２】　特別講義感想（レポート） 【課題３】　カラープランニング ※授業詳細は別紙プリントにて	【課題１】 小テスト ４月12日 【課題２】 レポート 【課題３】 グループ課題
	5	14	11	<カラーコーディネーター検定対策> 第４章	【課題４】カラーコーディネーター検定ノート	【課題４】 ノート提出
	6	15	15	住宅の設計 CADの操作方法 CAD平面図 建築CAD検定	■第２回　道都大学からの出張講座 実施日　６月30日２・３校時 スチレンボードの扱い方① 「たかがサイコロされどサイコロ」 【課題５】スチレンボードサイコロ作品	
	7	14	15		**デザインを考案し，全体に調和のとれたインテリアコーディネートとその表現ができるようにする。・プレゼンテーションボード・CAD図面・模型・コンピュータグラフィックを取り扱う。**	【課題５】 作品 サイコロ
	8	13	15		住宅の設計　【課題６】	
	9	14	15		【課題７】最新の住宅事情学ぶ ６月28日（月）　13時～15時半 住宅展示場見学（北海道マイホームセンター） １設計とは ２住居の計画 ３図面をよむ ４図面を描く 【課題８】宮脇檀「住宅設計調書」江校アレンジ ■第３・４・５回　道都大学からの出張講座 実施日　７月７日・8月30日・9月22日 ・「設計の工夫～卒業設計にむけて」 【課題９】卒業設計平面図 平面図の最終確認	【課題６】 平面図 手描きCAD 【課題７】 レポート 【課題８】 調書 【課題９】
後期	10	14	14	第４章 住宅の設計	【課題10】ＣＡＤ平面図　住宅模型 ■第６・７回　道都大学からの出張講座 実施日　11月8日・12月6日 ・「スチレンボードの扱い方②～模型製作にむけて」 道都大学　安藤　淳一　教授 □青山工学医療専門学校からのCAD出張講座 実施日　12月13日　卒業設計まとめ １インテリアの基本計画 ２各部屋のインテリア計画 【課題11】インテリアプレゼンテーション 【課題12】卒業制作プレゼン資料	【課題10】 平面図 【課題11】 平面図 模型 12月中 【課題12】 インテリアプレゼンテーションボード 12月中プレゼン資料提出
	11	14	14	第５章 インテリア計画		
	12	14	14			
	1 2 3	12	13	卒業制作	■卒業制作プレゼン発表会 １月19日（水）実施 学習成果発表会　２月１日 卒業制作展　３月１日	１月末　発表

○柱２についての取組

本校の特色であるＣＡＤ学習の深化を目指して取り組んだ建築ＣＡＤ検定等の資格取得は，生徒のスキルの向上に効果をあげ，専門性を生かした進路の実現にもつながりつつある。 また，ＣＡＤとワープロや画像処理等のソフトウェアを組み合わせるなど，ＰＣを活用した様々な実習にも取り組んだ。

従来の学習との関連付けを意識し，復習を大切にしながら授業実践を行うことにより，生徒の学習意欲を一層高め，専門的な知識・技術の習得に向けた学習意欲を向上させることができた。

○柱３についての取組

平成21年度の研究を通して明らかになった課題の改善のため，「文化・歴史・デザイン」等の視点から，住生活の質の向上についての理解の深化を目指し，歴史・文化・ライフスタイル・デザインを踏まえた課題を設定した。

② 専門科目「課題研究」における指導方法の工夫・改善

生徒が学習の成果や過程を一層実感できるように，ポートフォリオによる記録と評価を年間学習計画に位置付けて指導した。

ポートフォリオに保存する情報は多岐にわたるが，大切なことは，教師が生徒の変容を示すわずかなきっかけに気付き，それを評価することである。生徒のポートフォリオの中には次のようなものがあった。

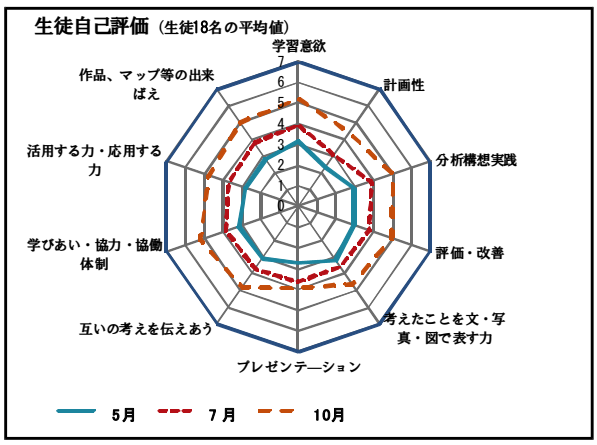
ア　始めに決定したテーマを変えるきっかけとなったもの
イ　他グループのプレゼンテーションを聞き，自分たちのプレゼンテーションのどこが不十分でどう改善したらよいか記入したもの
ウ　今までとは違う新しい視点をもつもの

生徒が毎時間の取組について記入する用紙を「アクションシート」とし，途中経過についての写真を撮り整理させた。また，付箋を併用し，授業以外の取組や友人や教師からのアドバイス等を書き加えさせた。さらに，記録することにより，目に見えない成長も反映されることを強調したり，教師も励ましの言葉等の付箋を貼るよう，内容の充実を図った。その結果，ポートフォリオから生徒自身が次の課題や改善策を探ることができるようになった。

教師は，改善のポイントを生徒に示したり，面談や日常のコミュニケーションの中でヒントを与えたりするなどして，適切に「評価」し，生徒にフィードバックすることができた。生徒は「記録」や「保存」,「評価」の繰り返しを通して，ねらいや課題等について認識できるようになった。これらの過程を通して生徒の学習意欲は一層高まった。

また，今年度は，生徒の学習過程において「身に付けさせたい力」について，生徒の自己評価をレーダーチャートに記入させた。評価はポートフォリオの内容を裏付けにし，伸びた力や不足している力，生徒による自己評価と教員による評価の差が明確に分かるようにした。

「身に付けさせたい力」のレーダーチャート



＜ポートフォリオの形態＞

全単元を通じて活用するポートフォリオ	アクションシート，授業記録写真，プレゼンテーション発表原稿，下書き 付箋による記入（相互評価，教師の支援や質問，気づきや補足，改善のメモ）
各単元の段階で活用するポートフォリオ	テーマ設定話しあい資料，みんなの意見，テーマシート，テーマ計画表，情報リサーチ，ゴールイメージ，シーズンイメージ資料，コンセプト企画表，ターゲット企画表，ターゲットマップ，サンプル作品のゴールイメージ，サンプル作品計画表，使用材料一覧，ゴールイメージ変更点，ターゲットマップの再構築，卒業制作発表会資料

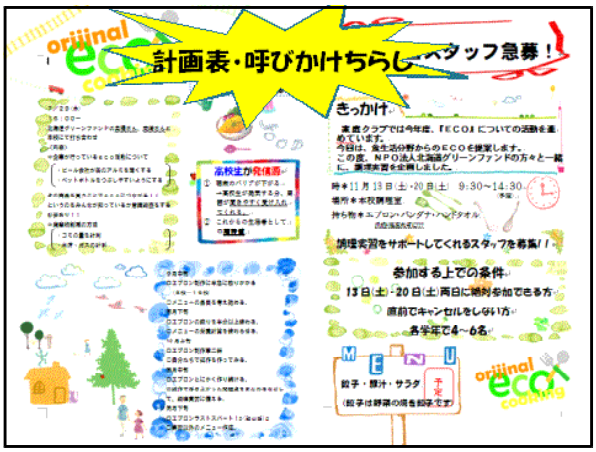
＜「アクションシート」による学習過程の自己評価例＞　※以下の「　　」は生徒記入例

方法	毎時間の取り組みについて「目標」と「成果」を照らし合わせて評価し，自分の考えや改善点を記述させた。 ○を顔に見立て，　その時の気持ちを表現。
生徒記入事例	【目　　標】シーズン･コンセプト最終仕上げ・発表原稿準備 【自己評価】「シーズン･コンセプトが無事できあがってほっとしています。周りのレベルも高くてちょっとびっくりしました。」
	【目　　標】ターゲットマップの作成。９月22日までに完成 【自己評価】「先生との話し合いで，ビンテージについての指摘やカントリー感の少なさを教えられました。デザインを考える上で３人の共通するところなどをちゃんと取り入れていこうと思いました。」
	【目　　標】ターゲットマップのプレゼンテーション。わかりやすく発表する 【自己評価】「発表への準備が自分たちで足りなかった。もっとまとめる事が出来た。 前回のプレゼンより内容が濃くなった分，ぐちゃぐちゃになってまとまらなかった。」

③　生徒の学習意欲を高める指導の工夫・改善

生活デザイン科の生徒自らが取り組む，「ＩＧＲすてきプロデュース」と名付けた企画は，学年の壁を越えた活動や継続した取組の引継等を通して全学年の協力体制が構築されていった。

「江高オリジナルクッキング」の計画と参加募集のちらし



今年度は，上級生のコンセプトを引き継ぎ，新学期に「藍染カレンダー」等を他学科のクラスに配付することから始めた。また，「キッチンから始める環境広場」と名付けた環境について考える研修を新たに実施し，地域に根ざした活動となるよう，関係団体との打合せ，参加者の募集から実施、報告会まで，生徒は主体的に取り組んだ。

また、生徒は活動の積み重ねにより以下の点に気付くようになった。

ア　取組には準備が必要
イ　相手に伝える表現力が必要
ウ　協同にはコミュニケーション力が必要
エ　発信には，表現力・言語力・プレゼンテーション能力が必要
オ　協力するには，優しい心とヒアリングが必要

さらに，生徒の間に積極的な参画意識が芽生え，３年生全員が企画に関わるまでに発展し，取組の充実感から学習意欲も向上した。

＜「ＩＧＲすてきプロデュース」通信　＞

(3)　考察及び成果と課題

専門科目「リビングデザイン」では，新学習指導要領についての研修を実施することで，本校の今後の教育課程編成に向けて考えることができた。また，専門的な知識・技術の定着を図る指導の充実を目指し，生活者としての視点を軸に「住」分野の学習の必要性を提案することを課題として取り組んでいきたい。

専門科目「課題研究」では，思考力・判断力・表現力の向上を目指す指導として，年間を通じてポートフォリオを活用した。ポートフォリオによる学習成果は絶えず「記録」「保存」され，それに基づき「評価」した。生徒はポートフォリオを通して取組の成果や課題に気付き，次のステップに向かう学習意欲をさらに高めることができた。

教師は，ポートフォリオを裏付けとしたレーダーチャートの結果から，生徒個々の学習過程の変容をつかむことができ，指導すべき内容が具体的になった。

「ＩＧＲすてきプロデュース」は，生徒が身に付けた知識や技術等を活用する場面も多く，様々な活動を通して地域に貢献したいという気持ちや，目標が明確となり，生徒の主体的な活動を促すことにつながった。また，生徒が上級学年と共に活動することで，学習意欲の向上や家庭クラブ活動への積極的な取組へとつながっていった。

３　研究の成果と課題

目標を焦点化した授業の構築や言語活動の充実を視点に据えた指導の工夫・改善により，思考力・判断力・表現力等の向上を図るとともに，生徒の情報活用能力・課題解決能力を育成することができた。さらに，生徒の主体的な活動の意欲は，学習活動にも反映され，専門的な知識や技術の定着につながった。

今後は，生徒が身に付けた知識や技術等を総合的に活用するマネジメント能力の育成や，関係機関との継続的な連携の在り方についても検討していきたい。

平成２２年度研究協議会資料≪教育課程≫

学校名（ふりがな：やまぐちけんりつあさこうとうがっこう）	山口県立厚狭高等学校

校 長 名： 藤澤　和子

所 在 地： 山口県山陽小野田市大字厚狭字東の原1660

電話番号： 0836-72-0204

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	家庭（専門科目）

【研究成果のポイント】

学科改編による専門科目の単位数減に伴い，これまでの教育課程及び学習内容を見直し，専門科目間の連携を図ることにより，ファッション製品を創造的に製作する知識 ・ 技術を身に付けさせることができた。また，技術検定への取組の充実や新たに3年生による研究発表と実技指導を取り入れることにより，研究活動に対する具体的な目標をもち，伝統を引き継いでよりよいものにしていこうとする向上心を養うことができた。

また，伝統文化体験や講師による技術講習，他校生との合同実習を通して，豊かな発想力や表現力が身に付き，グループ研究活動への意欲の向上と，より充実した研究活動へつなげることができた。この成果を地域での交流や地域に役立てていきたいという意識を喚起することもできた。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

本校は昭和24年に家庭科が設置されて以来，県内高等学校家庭科教育の中心校としての役割を担いながら，時代に応じた学科へと改編を重ねてきた。高度の専門知識・技術をもつ人材を求める生活産業の雇用傾向に対応するため，平成20年度に，大学や専門学校へ進学後，生活産業のスペシャリストとして活躍できる人材の育成を目指して，総合家庭科に改編した。

従前同様に専門性を高めることはもちろんのこと，地域社会に目を向け，豊かな生活を創造し，提案・実践することのできる学習活動に取り組むことを目指している。

２　学校の概要　（平成22年4月5日現在）

課程	学科	１年		２年		３年		4年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
全日制	普通科	3	119	3	115	3	115			9	349
	総合家庭科	1	40	1	37	1	40			3	117
	計	4	158	4	152	4	155			12	466
定時制	商業科	1	3	1	5	1	1	1	4	4	13
計		5	162	5	157	5	156	1	4	16	479

教員数　43名（5名）

＊本研究に関する科目等の開設状況

２年生から服飾系か食物系の系列選択履修

教科・科目	1年	2年	3年
被服製作	2単位	3単位	3単位
服飾手芸		2単位	
課題研究			2単位
ﾌｧｯｼｮﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ			3単位
総合的な学習の時間	1単位	1単位	1単位(注)

＊注： 3年生では専門科目に関する内容は行わない

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

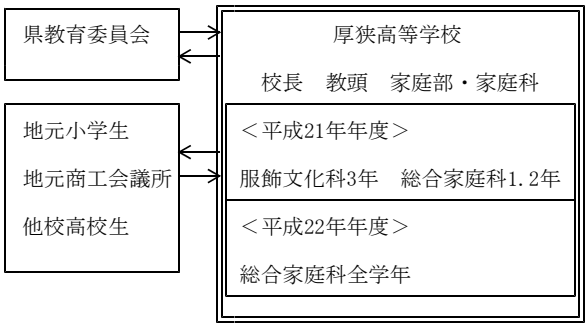
(1) 研究主題

ファッション製品を創造的に製作する能力と態度を養う学習活動を通して，家庭や地域社会に貢献できる人材を育成するための指導の工夫

(2) 研究主題設定の理由

これまでは，「被服製作」の学習活動は，自分が着用する衣服の製作にとどまっていた。このため，学んだ知識や技術を家族や地域社会に役立てる力を育成する機会が少なかった。そこで，ファッション製品の研究・製作にグループで取り組ませることで，生活産業のスペシャリストに求められる知識・技術の定着をさらに進めるとともに，地域社会に貢献できる「広い視野」や「豊かな心」の育成を目指したいと考え主題を設定した。

(3) 取組体制



(4) ２年間の主な取組

平成21年度	3月　専門科目の学習内容の見直し（平成20年度末）
	4月　地域の「ひな祭」参加に向けた研究活動開始
	6月　羊毛に関わる実習開始
	12月　日本の伝統文化･技術体験及び見学
	1月　3年生による研究発表･実技指導･作品説明会
	3月　地域の「ひな祭」参加，1年間の反省・まとめ
平成22年度	4月　祭衣装（「寝太郎太鼓」はっぴ）製作開始
	9月　学習成果発表会ファッションショー構成検討
	祭衣装贈呈
	11月　学習成果発表会
	12月　研究成果まとめ，研究成果PR活動開始
	1月　2年生への研究発表･実技指導･作品説明会
	3月　地域の「ひな祭」ワークショップ実施

２　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 学習内容の検討と効果的な指導方法の工夫

① 研究の重点

学科改編により，専門科目単位数は５単位減少したため，専門科目間の連携を図りながら，学習内容を立案した。

② 具体的な取組

ア　技術検定

授業内容と関連付けて目標をもたせることで，着実に技術を身に付け洋服１級，和服１級が取得できるように工夫した。

平成21・22年度の学習内容

［被服製作：8単位］

	学習内容	技術検定
1年 **2単位**	・被服の構成 ・被服材料	・基礎縫い 5月　模擬検定1～3回　**４級**
	・スカートの製図 ・ハーフパンツ ・じん平の製作 ・裏付きスカート	6月　ﾊｰﾌﾊﾟﾝﾂ製作　(10時間) 7月　模擬検定(ﾐﾆｻｲｽﾞ) **３級** 8月　家族へのﾊｰﾌﾊﾟﾝﾂ製作(夏期課題) 9～11月　甚平製作(18時間) 12月　模擬検定(ﾐﾆｻｲｽﾞ) 検定準備作業(冬期課題) **２級(和)**
2年 **3単位**	・*人体計測* ・*原型製図* ・*原型の展開* ・*被服材料* ・ジャケットの製図 ・ファッション造形の要素 ・ブラウス ・応用ブラウス ・裏付きジャケット ・総合実習	4～7月　ﾌﾞﾗｳｽ製作　(12時間) 7月　模擬検定(ﾐﾆｻｲｽﾞ) ***２級(洋)*** 8月　応用ブラウス(夏期課題) 9～12月　ジャケット製作 製図　(5時間) 製作　(23時間) 検定準備作業(冬期課題) 1～2月　製作，試着会 準備作業手直し(2時間) ***１級(洋)***
3年 **3単位**	・*浴衣の製作* ・総合実習	4～6月　浴衣製作　(27時間) 7月　着付け講習会　(3時間) 検定準備作業**１級(和)**

［服飾手芸：２単位］

2年 **2単位**	・*刺しゅう(リボン刺しゅう)*　・染色　・布花 ・フェルト作り　・スラッシュキルト ・スモッキング　・*レース編み*　・*色彩学*

［総合的な学習の時間：３単位(専門内容：2単位)］

1年 **1単位**	・*アップリク*　・*パッチワーク*　・*刺しゅう* ・*テーマ研究*　・*発想と表現(平面)*
2年 **1単位**	・テーマ研究　・*発想と表現(立体)* ・デザイン画　・製作研究

［ファッションデザイン：選択３単位］

3年 **選択** **3単位**	・テキスタイルデザイン ・創作作品のイメージCG（スクリーン） ・*創作作品のデザイン及び製作*

［課題研究：２単位］

3年 **2単位**	・地域社会の貢献するための研究活動 ・学習成果発表会に向けての取組

＊　は新学習指導要領を踏まえて新たに加えた学習内容

＊*斜字*は教育課程上で、履修する学年や科目を変更した部分

イ　課題研究・学習成果発表会に向けて

目標を設定し，意識調査や各取組の感想をもとに，生徒の実態や意識の変容を把握しながら進め，学習効果が上がるように計画した。

③　考察及び成果と課題

専門科目間の連携を図り，１年生で家庭科技術検定のより高い級を受検することも可能となり，生徒の意識を高めることができた。食物系の専門科目も学習していることによって，３冠王も取得可能となり，更に意欲が高まっている。生徒自身は計画性と自信が身に付いたと感じている。

３年間を見据えて，各科目で身に付けるべき内容を明確にしたことで，課題研究とその成果発表会につなげることができた。しかし，生徒の取組や意識の変容には個人差があり，指導に更なる工夫が必要である。

(2) 学習意欲を高め，知識･技術を発展させる取組

①　研究の重点

目標を明確に設定し，グループで取り組む総合実習を効果的に取り入れることにより，学習内容を発展させ，ファッション製品を創造的に製作できるようにした。

②　具体的な取組

ア　講師による技術講習や体験学習

修学旅行での文化体験学習，外部講師による技術指導，他校生との羊毛刈りや素材作りの体験学習を通して，幅広い知識や技術を習得させる。

他校生との羊毛刈り体験実習

毛糸紡ぎ実習

感想：本物を作り出すのはとても時間がかかるとわかった。天然素材の温かさを感じ，大切に作品にしようと思った。

イ　先輩からの技術指導

３年生が２年生に向けて課題研究での取組を発表し，実技指導を行うことにより，学習意欲を高める。

課題研究発表会

手芸技法の実技指導

作品の記録

製作者による説明

感想：先輩の話を生かして製作したい。服飾の伝統を必ず受け継ぎます。

ウ　テーマに即した創作活動と学習成果発表

テーマに即したデザインと製作グループを決定し，学習内容を発展的かつ創造的に表現させる。（第１段から第３段まで）これにより製作した作品をファッションショーで発表する。発表会のプログラム，パネル，ポスター，メッセージカードづくりを通して，表現力や伝える力を養う。

年度	月	現3年生の具体的な取組	指　導　方　法
21	3月 4月	・研究テーマについて調べ，発想源を模索 ・調べ学習を元に素材を変えながら製作を繰り返す（その都度まとめと発表を行うことで，発想力と表現力を高める） **形態演習発表の様子**　　**作成レポート**	・「雛」の多面性に気付き，自由な発想ができるよう指導。 ・想いを形にするため点や線の素材を用いた形態の基礎を学び，ハーフサイズボディに表現させ，レポート作成やプレゼン方法を指導。 ・デザイン画を持ち寄り，作品に込めた想いと手芸技法を中心にプレゼンさせ，卒業製作にふさわしいかという視点で相互の作品を評価し合い，感想を記入させる。 ・感想用紙を開示。自分のデザインへの意見を受け入れ，再案を提出させる。共感したデザインは取り入れてもよい。再案のデザインに入れたい手芸技法の一部を試作してプレゼンするよう指示。 ・３度目のプレゼンで投票。自分たちの作品として納得できるデザインを３つ選ぶよう指示。選ばれたデザインを描いた者が責任者となり，リーダーシップをとって製作を進めるように指導。 ・生徒の作りたい作品と教員が作らせたい作品を調整。 ・選ばれたデザインを発表。自分が製作したい作品を第３希望まで記入させる。メンバー間の交友関係ではなく，あくまでも自身の卒業製作作品として技術が発揮できるデザインを選ぶよう指示。 ・グループメンバーを調整。第1希望を優先するが構成人数の偏りや生徒の技術力を考慮し第2希望に移動させる場合は個別面談実施。 ・ハーフサイズは，本作に忠実な材料で取り組むよう指示。教員にプレゼンし，合格するまで本製作には進めないため材料の大量購入は避けるよう指示。グループ全員で取り組み，各人が全工程を把握していないと本製作でやり直しが生じる原因となることを指導。
	6月	・第1段デザイン画の発表会（投票を繰り返して4作品に絞り込む） ・ハーフサイズで試作開始 **デザイン画のプレゼン**	
	1月	・最終グループも本製作開始（ハーフサイズで取り入れた技法を確認しながら各自の製作を進める） ・3年生からの実技指導	
	2月	・第2段デザイン画の発表会（投票を繰り返して6作品に絞り込み第2段の試作開始）	
22	4月	・役員選出　**未完成者も一緒に撮影** ・最終グループも第2段の本製作開始 	・総合責任，パンフレット製作，オープニング企画，音楽編集を立候補と互選で選出。役員は全体のまとめ役に徹するよう指示。
	5月	・第1段の最終チェック，写真撮り	
	7月	・第1段再チェック ・第2段チェック，写真撮り	
	9月	・第1段再々チェック ・第2段最終チェック，写真撮り ・学習成果発表会の構成検討　**素材を加工** 	・第１段の締切４月上旬。第2段の締切７月中旬。製作と並行してノート（製作記録）への記載も指示。評価。
	10月	・オープニング衣装検討，製作（羊毛の活用） ・ポスター，パネル，スクリーン用映像制作 ・ウォーキング講習会 **スクリーン用写真撮影**　　**縫製工程の説明**	・締切日にはグループで正面と背面の写真撮影を行いグループ意識を高め，責任者が全体を統括しやすくする。個人のできばえを細かくチェック。評価。 ・未完成者には今後の計画を立てさせ，１週間ごとに個人チェックや助言，面談実施。終了まで継続。 ・製作への取組意欲やできばえに差が出始めるとグループ内やクラス内で衝突が起こる。必要に応じて指導，助言，見守りが必要。終了まで継続。
		・パンフレット制作，メッセージカードづくり 	・作品が完成した者は更に技法を加え完成度を上げるよう指示。 ・全作品を８月末に試着可能な状態に仕上げるよう指示。10月中旬までには技法も仕上げるよう指導。 ・ショーの構成について検討。自分たちが目立ちたいという思いより，来場者をもてなす視点で考えるよう指示。
	11月	・学習成果発表会 	・オープニング衣装は布の裁断とパーツ準備までを役員と有志で行い，一斉に製作することで短時間で完成可能。 ・完成した者はグループ内外に目を向けさせ，できることは何か考えさせる。 ・１か月前頃から疲労が目立ち，仲間割れが生じる。目指すものは何かを問い互いを認め合えるよう助言。解決後，急速に結束が強まる。
	1月	・2年生への実技指導（予定）	

＜生徒の記録（一部抜粋）＞

・ハーフサイズ完成までに思わぬ時間がかかった。素材も技法も決まらない。デザイナー無視で勝手に縫ってくる人，面倒くさくてさぼる人，居るのに話し合いに参加しない人。夏休みもほとんど毎日登校したのに仕上がらなくてイライラ。（2年次・10月）

・やっと本作に入ったのに問題多発。ハーフサイズの時の協力のなさが招いた結果だ。突っ走って製作していた私まで「立ち止まって周り見て」と攻撃され，もめて不満で一杯だ。（2年次・2月）

＜生徒の感想（一部抜粋）＞

・初めて出された形態演習の課題では「期限」の重要性を教わり，デザイン決定後の製作では「人間関係」を鍛えられた。2段の製作では「協力」ができるか試された。デザイナーと意見が合わなかったり，縫ってこない人がいたり，文句を言ったり，悪い意味で泣いていた人が多かったけど，だんだんできない人を手伝ったり，悩みを聞いて励ましたり，みんながみんなのためを考えるようになって，はじめて「ありがとう」という思いで涙を流すようになった。（3年次・11月）

・誰かを犠牲にしたり，踏み台にしたり，嫉妬とか文句とかたくさんあるけれど責めるのはとても簡単なことで，でも誰かを支えたり，感謝したり，愛したり，一緒に生きるってことは難しかった。だけど私はこのショーまでの経験を通じて変わった。誰かのおかげで生きている。誰かのために生きている。そう感じられるようになったことは幸せだ。（3年次・11月）

③　考察及び成果と課題

スペシャリストから学び，体験学習を重ねることで，発想力や表現力，センスを高め，レベルの高い製作へとつなげることができた。先輩からの技術指導により，下級生は早い時期から目標や向上心をもつことができ，上級生は伝える力が身に付いた。

また，学習成果発表会を目標にすることで学習意欲が高まり，グループ活動ではリーダーシップや協調性，協力することを生徒自ら学び，お互いを高め合うことができた。さらに，製作した作品への想いや，活動紹介，お世話になった方へ感謝の気持ちを伝える力も，学習活動を通してはぐくむことができた。指導者は，発表会に至るまで，生徒の精神的支援と確固たる指導の姿勢が不可欠である。

(3)　地域との連携・貢献につながる活動

①　研究の重点

地域の祭でワークショップ実施，祭衣装を製作することで，学習成果を地域に役立てたいという意識の育成，向上を目指した。

②　具体的な取組

ア　貝の雛人形作成とワークショップ

地域の祭で，雛人形のワークショップを実施することで，地域との連携と学習成果や活動のＰＲを図った。

イ　祭衣装（はっぴ）の製作

２・３年生共同で，デザイン，素材選定，製作活動に取り組み，地域の小学生の「寝太郎太鼓」演奏グループに贈呈し，交流することができた。

年度	月	具体的な取組
21	4月	・地域への貢献に向けて，「はっぴ」のデザイン画を立案，発表，検討，投票を重ねてデザイン決定
	2月	・技法の試作，1年生（現2年生）へのプレゼン
	3月	・地元商店街の「ひな祭」に参加 ・山陽小野田市合併記念式典に参加
22	4月	・3年生の技術指導のもと，現2年生中心に「はっぴ」製作
	9月	・贈呈のため寝太郎太鼓の練習場を訪問
	10月	・着用の様子を視察

試作した技法のプレゼン

「ひな祭」でのワークショップ

「はっぴ」贈呈の様子

年度	月	具　体　的　な　取　組
22	11月	・「ひな祭」ワークショップ，「はっぴ」贈呈の報告会
	12月	・次回用「ひな祭」ワークショップ内容検討，プレゼン
		・ワークショップ内容の試作
	1月	・2年生へワークショップ内容の引き継ぎ（予定）

報告会の様子

ワークショップ内容の検討

＜「ひな祭」ワークショップ参加生徒の感想（一部抜粋）＞

・途中で同じ説明をするのに飽きてしまい，無意識のうちにため息をついていて態度が悪かったと反省している。
・人に説明するのは難しいと改めて感じた。家でも作りたいと言う方もいたので，説明書はやはり必要だった。
・「できた～」と嬉しそうに報告してくれると私も嬉しくなり，一日で何日分もの笑顔をもらえて幸せな気持ちになった。
・私たちは商店街の人に見守られてきたんだな～と感じた。このイベント参加が厚狭高校の新しい伝統になればいいと思った。

＜「はっぴ」製作，贈呈参加生徒の感想（一部抜粋）＞

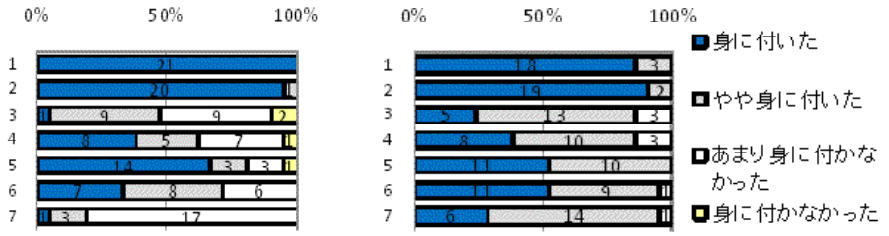
・「はっぴ」を届けると，小学生が皆とても喜んで,はしゃぎながら着ていた。デザインの説明もしたが，もっと簡単な言葉を選ばないと伝わらなかった。「格好いい」とか「こんなのよく作れるよね」と言われて嬉しかった。手作業で作った「はっぴ」を着てたたく姿はとても迫力があり感動した。「軽くて今までの衣装よりたたきやすい」と，とても喜んでもらえて嬉しかった。

＜報告会で報告を受けた生徒の感想（一部抜粋）＞

・人のために役立つ活動をしたことで，やりがいや充実感を体験できたと思う。厚狭高校を知ってもらう機会にもなったと思う。
・身に付けた知識や技術が役立てられると知って嬉しかった。地域の方や小学生まで，違う世代の方と直接触れ合うときは話し方や言葉遣いにも気を付けなければいけないと勉強になった。来場者の技術レベルや予算に応じた企画を精一杯提案したい。

現総合家庭科３年生
アンケート

1 被服製作の技術・知識
2 技術検定資格の知識・技術
3 家族の役に立てるようになった
4 自分に自信がついた
5 生活に役立つ知識・技術
6 将来の進路の基礎技術・知識
7 地域社会に貢献できる知識・技術



【アンケートから】・１と２と５の項目は１年次に「身に付いた」実感があったが，学年が進むにつれ，より高い技術や知識を求めるため，３年次では「やや身に付いた」を選択した傾向がある。
・３年生では知識・技術が身に付いたという割合がほとんどの項目で９割を超えている。
・１年生の時に比べて地域社会に貢献できる知識・理解が身に付いたという割合が最も伸びた。

③　考察及び成果と課題

１年目のアンケートでは，地域に向けての意識は薄かったが，２年目は，学校や自分たちの活動を知ってもらう機会があり，学習成果を地域のために役立てたいという意識を喚起することができた。また、学習を生かした作品が子どもたちに喜ばれたという充実感を体験するとともに，異世代とのかかわりが言語活動能力の育成につながった。活動定着のための計画が課題である。

３　研究の成果と課題

学科改編により，専門科目の単位数が減少したが，新学習指導要領の新科目「ファッション造形」を見据えて内容の精選と計画を工夫することで，これまで以上に充実した指導を行うことができた。また，様々な技術講習や体験学習を取り入れることで学習意欲を高め，知識・技術を発展させながら，ファッション製品を創造的に製作する能力と態度を育て，その成果をまとめて発表することもできた。さらに，身についた知識や技術を地域のために役立てたいという意欲も芽生え，その活動も広がりつつある。

今後、この２年間の成果の分析結果をもとに，より充実した研究活動やよりよい指導につなげていきたい。また，積極的なPR活動を通して活動を幅広く発信し，生徒の更なる学習意欲の向上を図りたい。